

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/4 （4/20との比較）	5/4 （4/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	2.33% （▲0.01）	84.93円 （+0.72%）	+2.9% 2017年4Q	1.25%	発表されたGDP（国内総生産）が市場予想を上回る結果。利上げの時期については慎重な見方が広がったものの、中銀総裁のコメントがハト派的な内容だったことなどから、国債利回りは小幅低下。カナダドルは対円で上昇。	住宅着工件数や失業率などの発表を予定。住宅着工件数は悪天候のため若干減速、失業率は横ばいを予想。原油価格は足元で高水準に推移しているため、今後の動向には注意が必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	8.73% （+0.15）	30.91円 （▲2.00%）	+2.1% 2017年4Q	6.50%	鉱工業生産は市場予想を下回る結果。米国による鉄鋼・アルミニウムへの輸入関税問題に関し、ブラジルとの間に摩擦があることなどから、国債利回りは上昇。レアルは対円で下落。	特段重要な経済指標等の発表がなく、財政改革と政治リスクの動向が主な変動要因になると見込む。米国による鉄鋼・アルミニウムへの輸入関税をめぐって両者に対立があることから、今後の行方には注意が必要。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.45% （+0.12）	5.66円 （▲2.54%）	+1.2% 2018年1Q	7.50%	発表された第1四半期のGDPが堅調な結果だったことや、NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉を受け、メキシコ政府が数日中に合意にいたる可能性が高いとの見方を示したことなどから、国債利回りは上昇。ペソは対円で下落。	特段重要な経済指標等の発表はなし。NAFTA再交渉の見通しは改善しているものの、さまざまな観点から難航する恐れが含まれているため、引き続き注意が必要。債券・為替市場は概ねレンジ内での推移を想定。
	A3	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/4 （4/20との比較）	5/4 （4/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.77% （▲0.04）	82.27円 （▲0.38%）	+2.4% 2017年4Q	1.50%	中銀が発表した四半期金融政策報告書において、インフレ率の上昇には懐疑的な見方を示したものの、国内経済は加速すると示したことなどから、国債利回りは低下。オーストラリアドルは対円で下落。	小売売上高などの発表を予定。中国経済の鈍化や足元の鉄鉱石価格等には引き続き注意が必要。また、地政学リスクの高まりから原油価格の動向にも注目。為替は概ねレンジ内での推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.78% （▲0.09）	76.60円 （▲1.30%）	+2.9% 2017年4Q	1.75%	住宅指標や雇用統計はまずまずの結果となったものの、消費者信頼感指数や貿易統計、企業景況感などが弱めの結果となり、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	中銀の政策スタンスを変えるような材料は現在のところ乏しく、政策金利は当面据え置かれるものと想定。10日に中銀理事会が開催されるが、政策金利は据え置きが予想され、債券・為替市場も一進一退を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.85% （▲0.03）	13.54円 （▲1.60%）	+1.4% 2017年4Q	0.50%	失業率や小売売上高などは良好な結果。中銀理事会にて政策金利は据え置きを決定。経済見通しとリスクバランスは3月会合時と大きく変わっていないとの見方を示し、ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは低下。	鉱工業生産やCPI（消費者物価指数）、生産者物価指数など、多くの重要指標が発表予定。今年の夏以降に実施する可能性が示唆されている利上げに対して、判断に影響が与えられる内容となるかどうかには注意が必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		5/4 （4/20との比較）	5/4 （4/20との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.75% （+0.24）	8.73円 （▲1.86%）	+1.5% 2017年4Q	6.50%	製造業PMI（購買担当者景気指数）は、景気拡大・縮小の節目である50を越え上昇したことから、投資家心理が回復し、国債利回りは上昇。南アフリカランドは対円で下落。	製造業生産などの発表を予定。政治改革の更なる進展などが期待されるものの、南アフリカ固有の材料には乏しい中、米ドル高基調の継続から債券・為替市場は共に上値の重い展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	6.60% （+0.41）	0.78円 （+1.02%）	+5.2% 2017年4Q	4.25%	CPIや製造業PMIは前月分から改善。米 国金利上昇への警戒から、海外投資家の債券 売買フローが大幅な純流出となり、国債利回 りは上昇。一方、中銀が為替相場の安定性を 重視する中、ルピアは対円で上昇。	GDPなどの発表を予定。海外投資家の債券 売買フローが流出方向に偏りやすい中、良好 な国内景気や中銀が通貨安定性を重視するこ となどを背景に、インドネシアの債券・為替 市場は底堅い推移を予想。
	Baa2	 金利上昇		 景気拡大	 据え置き局面		
インド 	BBB-	7.78% （+0.09）	1.63円 （+0.20%）	+7.2% 2017年4Q	6.00%	特段重要な経済指標等の発表はなし。米 国の対中貿易政策による世界経済への先行 き不透明感や原油価格の上昇などを受け、 国債利回りは上昇。ルピーは対円で上昇。	鉱工業生産やCPIなどの発表を予定。米 金利上昇に伴う債券市場からの資金流出 圧力や、原油価格上昇を受けた貿易収支の 悪化などを背景とした、ルピーの下落には 注意が必要。
	Baa2	 金利上昇		 景気回復	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

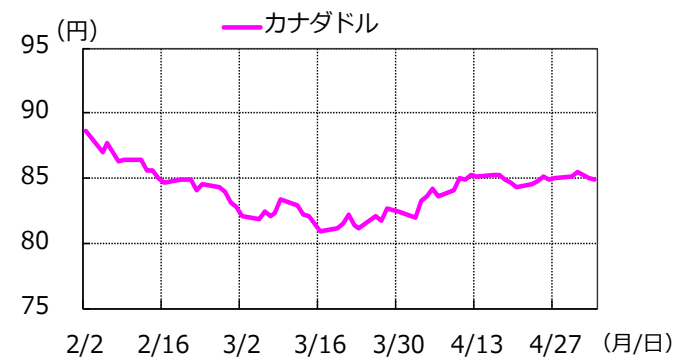
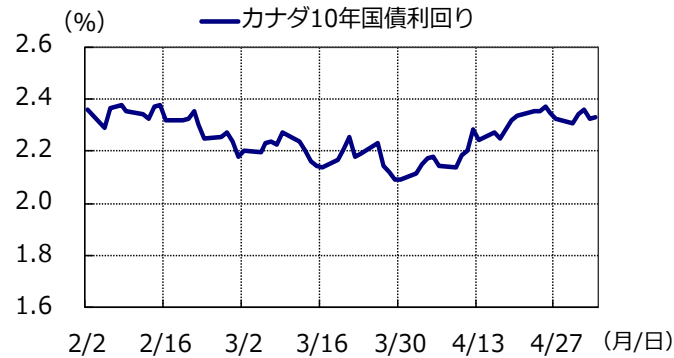
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

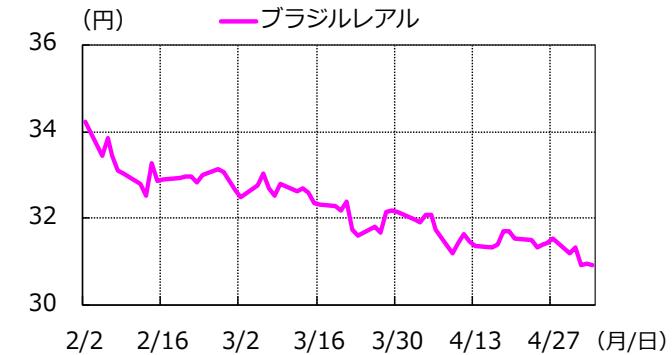
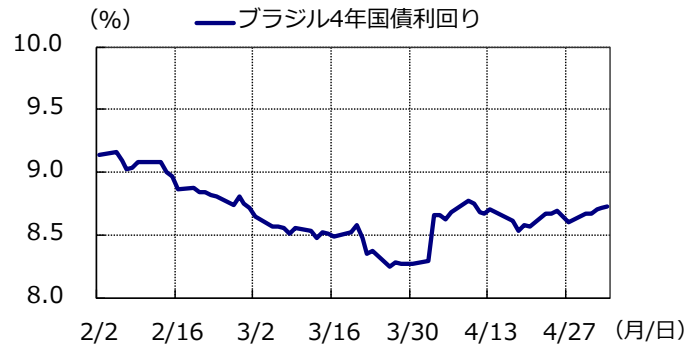
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/2/2～2018/5/4

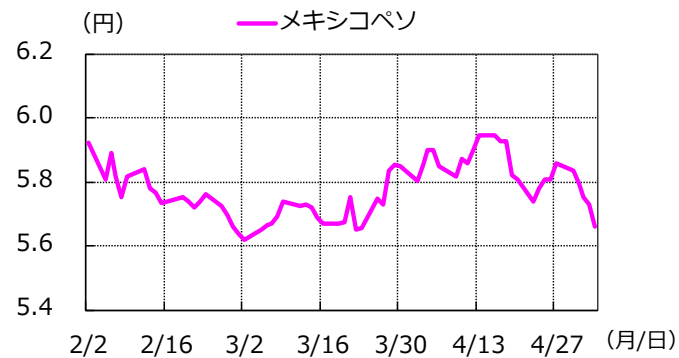
カナダ



ブラジル



メキシコ

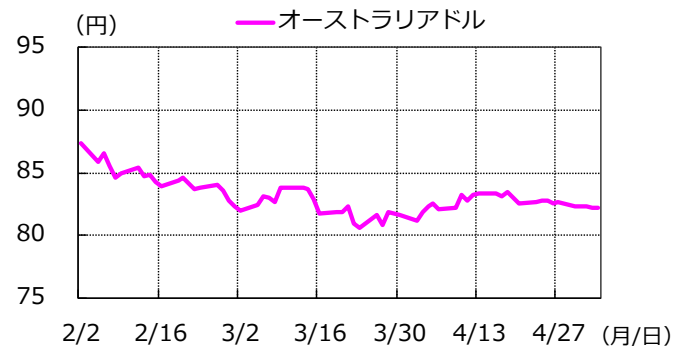
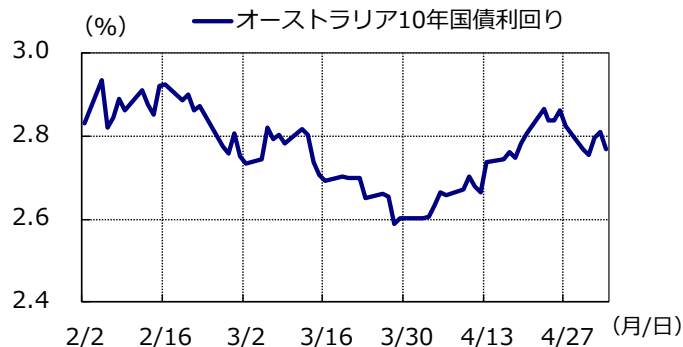


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

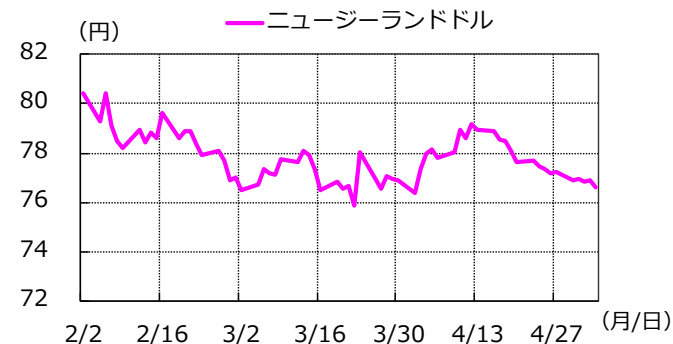
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/2/2～2018/5/4

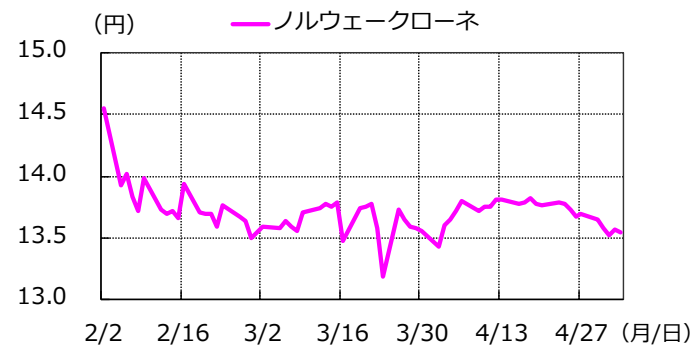
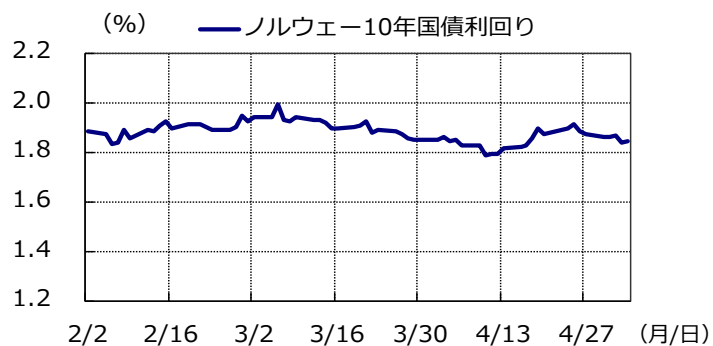
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

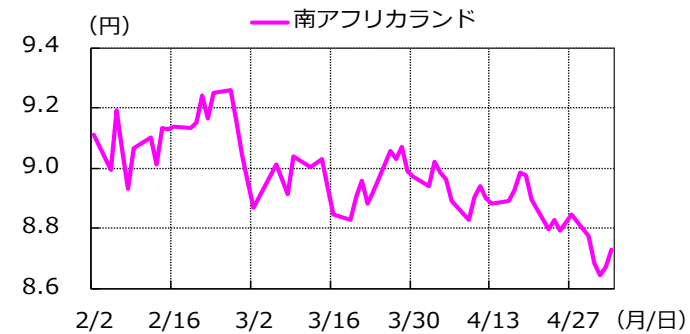
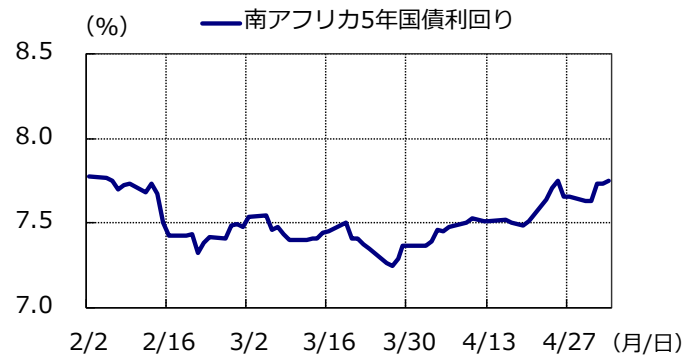


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

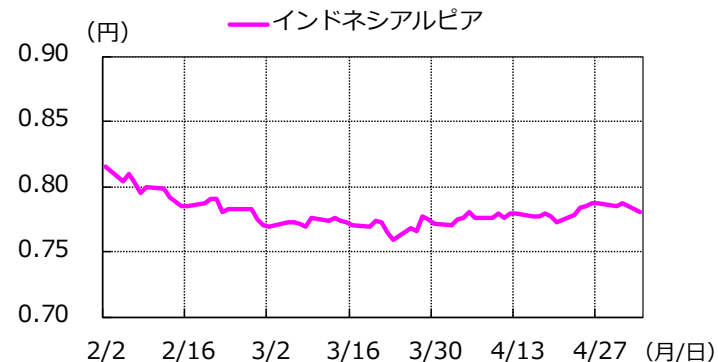
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/2/2～2018/5/4

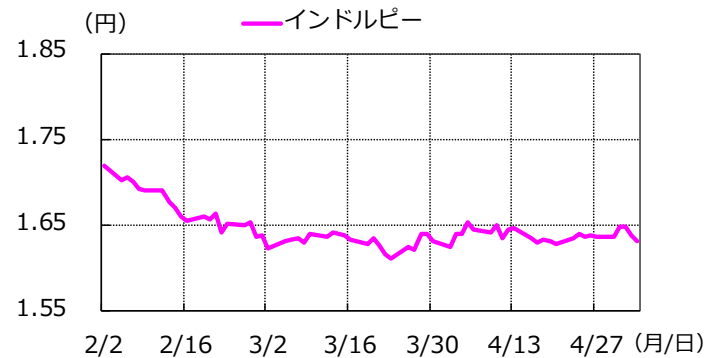
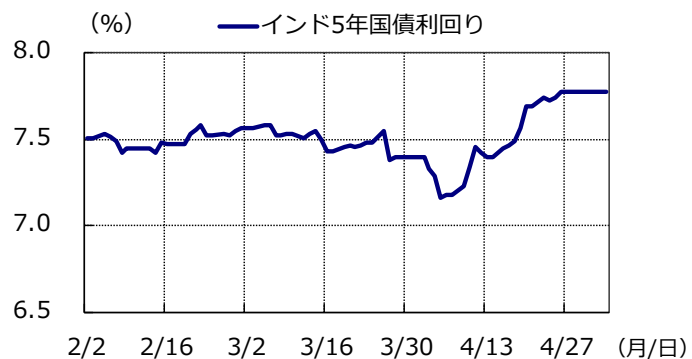
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。